

2012年10月9日

各 位

会 社 名 ローツェ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 崎谷文雄
 (JASDAQ・コード 6323)
 問合せ先 管理部長 橋本 勲
 電 話 084-960-0001

2013年2月期第2四半期連結累計期間業績予想との差異 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2012年4月9日に公表しました2013年2月期第2四半期連結累計期間業績予想値と本日公表の実績値について、下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。また、通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2013年2月期第2四半期連結累計期間業績予想値と実績値との差異

2013年2月期第2四半期連結累計期間 (2012年3月1日～2012年8月31日)

(単位：百万円)

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 四半期純利益 | 1株当たり四半期純利益 |
|------------------------------------|-------|---------|---------|--------|-------------|
| | | | | | 円 銭 |
| 前回予想 (A) | 5,526 | 298 | 263 | 78 | 4.64 |
| 実 績 値 (B) | 4,669 | 148 | 128 | 49 | 2.95 |
| 増減額 (B-A) | △857 | △150 | △135 | △29 | — |
| 増 減 率 (%) | △15.5 | △50.3 | △51.3 | △37.2 | — |
| (ご参考) 前期第2四半期実績 (2012年2月期第2四半期) | 5,466 | 449 | 398 | 154 | 9.20 |

2. 通期連結業績予想の修正

2013年2月期通期連結業績予想数値の修正 (2012年3月1日～2013年2月28日)

(単位：百万円)

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当 期 純 利 益 | 1株当たり当期純利益 |
|--------------------------|--------|---------|---------|-----------|------------|
| | | | | | 円 銭 |
| 前回予想 (A) | 11,844 | 767 | 718 | 317 | 18.90 |
| 今回修正 (B) | 9,301 | 311 | 271 | 149 | 8.88 |
| 増減額 (B-A) | △2,543 | △456 | △447 | △168 | — |
| 増 減 率 (%) | △21.5 | △59.5 | △62.3 | △53.0 | — |
| (ご参考) 前期実績 (2012年2月期) | 10,300 | 475 | 527 | 131 | 7.82 |

3. 理由

(1) 2013年2月期第2四半期連結累計期間の業績予想値と実績値との差異理由

連結売上高につきましては、パソコンや液晶テレビの需要低迷、販売不振が続く中、製造装置に対する新規設備投資が減少傾向となり、国内、韓国及び台湾の主要取引先等における設備投資計画の見直しや先送りの影響を受け、ウエハ搬送装置及びガラス基板搬送装置の売上高が減少したため、当初予想値を下回りました。

損益面につきましては、設備投資減少に伴う売上高減少に加え、円高の長期化による海外での受注獲得競争の激化、新規開発を伴う装置の受注対応の増加等により、厳しい状況が続いたため、当初予想値を下回りました。

(2) 2013年2月期通期連結業績予想数値の修正理由

パソコンや液晶テレビの需要低迷、販売不振が続く中、半導体においては、DRAMやフラッシュメモリーなどの市場価格の下落傾向が強まり、製造装置に対する新規設備投資については減少傾向となっております。また、液晶パネルに対する設備投資も、液晶テレビ用の大型液晶ガラス基板からスマートフォンやタブレット端末用の高精細な中小型液晶パネルへとシフトしております。

今期の当初計画では、新規設備投資の回復を見込んでおりましたが、このような厳しい設備投資環境や当第2四半期連結累計期間の実績等から総合的に検討した結果、ウエハ搬送装置及びガラス基板搬送装置の受注及び売上高が当初計画より減少する見通しとなったため、通期連結業績予想の修正を行うものであります。

なお、今回の通期連結業績予想の修正に伴う配当予想の修正はありません。

(注) 本資料に記載されている業績予想及び将来に関する内容は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により、予想数値と異なるものとなる可能性があります。

以 上